

平成23年度  
事務事業の点検及び評価報告書

平成24年9月  
恩納村教育委員会

## 1 はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改正され、教育委員会は毎年、その権限に属する事務の執行及び管理状況についての点検、評価を行い、その結果を報告書として作成し、議会に提出するとともに、公表することになっております。

そのため、恩納村教育委員会では、効果的かつ効率的な教育行政の推進に資するとともに、村民への説明責任を果たしていくために、同法第27条の規定に基づき、教育委員会の事務の点検及び評価を行い、その評価に際しては、教育に関する学識経験者で構成される外部評価委員会を設置しその知見の活用を図りました。

この報告書は、毎年作成し公表しておりますが、教育委員会としましては、報告書の内容充実に努め、村民にわかりやすい報告書にするために、必要な検討を加えていくことにしています。

また、点検評価の実施を通じて、教育施策の効果的な検証と改善を図りながら、事務事業の点検及び評価に関する結果を報告書としてまとめ、議会に提出した後、村民に公表するとともに、翌年度の施策、事業の改善に役立てるものとし、本村教育行政の着実な推進につなげていきたいと考えております。

(参考)

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」抜粋

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第27条 教育委員会は、毎年その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。（平成20年4月1日施行）

## 2 教育委員会の活動状況について

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、首長から独立した行政委員会として各都道府県、市町村に設置されています。委員は5名で組織され、その合議の下に、学校その他教育機関の設置及びその管理や廃止に関することや教育財産の管理、学校の教育課程、学習指導、生徒指導等に関することなど教育行政の執行管理を行っています。

通常の業務については、委員の中から選任された教育長を通して、業務の執行管理を行いますが、教育行政の基本的な方針や委員会規則や規程の制定、学校や教育機関の設置や廃止、教育機関の職員の任免、事務事業の評価などは教育長に委任することはできず、委員会自らが執行管理をすることになっています。

### (1) 教育委員の任命状況

教育委員は、村長が議会の同意を得て選任し、その任期は4年となっています。平成23年度は、渡口委員が委員長に選任され、宜志富委員が委員長職務代理者に選任されました。

平成23年度の教育委員は次のとおりです。

役職	氏名	任期	教育委員としての経歴		備考
			当初就任	勤続年数	
委員長	渡口美智子	平成21年7月1日～平成25年6月30日	平成17年	2期7年	委員長1年
委員	宜志富栄	平成23年4月1日～平成27年3月31日	平成19年	2期5年	委員長職務代理者1年
委員	島袋正重	平成21年5月1日～平成25年4月30日	平成13年	3期11年	
委員	官平千佳	平成22年4月1日～平成26年3月31日	平成22年	1期2年	
教育長	石川哲夫	平成21年4月1日～平成25年3月31日	平成21年	1期3年	

(2) 教育委員会の会議

教育委員会は、恩納村教育委員会会議規則に基づいて毎月21日を定例教育委員会の開催日として会議を開催するほか、緊急を有する事案が出た場合は適宜臨時会を開催し、必要事項を審議し決定しています。また、各種の主催事業や村の各種行事、各種の研修会などにも積極的に参加しています。

平成23年度の教育委員会の会議の開催状況は次のとおりです。

会議の名称	日時	場所	出席委員	案件等
4月定例会	4月21日 午前10時	役場3階会議室	5人	1 前回会議概要の承認 2 教育長の業務報告 3 議案第1号 恩納村教育委員会後援等の受諾に関する規程の制定について 4 議案第2号 恩納村立学校評議員の委嘱について 5 議案第3号 恩納村教育振興審議会委員の委嘱について 6 議案第4号 教育委員長の選任について 7 議案第5号 教育委員長職務代理者選任について 8 その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 恩納村立図書館計画について（答申）</li> <li>・ 沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会並びに研修会について</li> <li>・ 東日本大震災の避難者の受け入れについて</li> <li>・ 秋田県講師招聘受け入れ等について</li> <li>・ 学級編成の教職員定数に関する法律の改正について</li> <li>・ 教職員採用試験について</li> </ul>

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
5月定例会	5月23日 午後3時	役場3階会議室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回来議概要の承認</li> <li>2. 教育長の業務報告</li> <li>3. 議案第6号 恩納村学校管理規則の一部を改正する規則について</li> <li>4. 議案第7号 恩納村学校評議員設置要綱の一部を改正する要綱について</li> <li>5. 議案第8号 恩納村要保護及び準要保護児童生徒認定要綱の一部を改正する要綱について</li> <li>6. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校訪問について</li> <li>・ 中頭地区教育委員会連合会総会及び研修会について</li> <li>・ 東日本大震災の避難児童生徒の受け入れについて</li> </ul> </li> </ol>
6月定例会	6月21日 午前10時	役場3階会議室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回来議概要の承認</li> <li>2. 教育長の業務報告</li> <li>3. 議案第9号 恩納村教育委員会事務局組織の変更に伴う関係要綱等の整備に関する要綱の制定について</li> <li>4. 議案第10号 恩納村心身障害児童適正就学委員会規則の一部を改正する規則について</li> <li>5. 議案第11号 恩納村立学校評議員の追加委嘱について</li> <li>6. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「作者に学ぶ・授業者に学ぶ」研修会の件</li> </ul> </li> </ol>
7月定例会	7月21日 午前10時	役場3階会議室	4人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回来議概要の承認</li> <li>2. 教育長の業務報告</li> <li>3. 議案第12号 恩納村青少年団体等活動助成事業補助金交付要綱の制定について</li> <li>4. 議案第13号 恩納村特別支援教育支援員配置要綱の制定について</li> <li>5. 議案第14号 恩納村指定研究実施要綱の制定について</li> <li>6. 議案第15号 恩納村「心の教室相談員」設置要綱の一部改正について</li> <li>7. 議案第16号 恩納村教育振興審議会委員の委嘱について</li> <li>8. 議案第17号 平成23年度要保護及び準要保護児童生徒決定について</li> <li>9. 議案第18号 平成23年度恩納村立幼稚園保育料減免者の決定について</li> <li>9. 議案第19号 平成24年度使用中学校教科用図書採択について</li> <li>10. 議案第20号 沖縄県職員の給与に関する条例における沖縄県教育委員会の権限に属する諸手当認定事務の移譲に係る意見について</li> </ol>

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
				11. 議案第 21 号 沖縄県職員の給与に関する条例における沖縄県教育委員会の権限に属する諸手当認定事務の移譲に係る協議について 12. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 23 年度夢作文コンクール実施要項について</li> <li>・平成 23 年度恩納村学校給食ポスター・作文・標語コンクールについて</li> <li>・平成 23 年度学校美化コンクール実施要項について</li> <li>・平成 23 年度恩納村「あいさつ運動」標語募集について</li> <li>・学校給食における食物アレルギー対応について</li> <li>・平成 23 年度恩納村教職員研修会について</li> <li>・平成 23 年度恩納村学校管理職研修会実施要項について</li> <li>・地域懇談会教育委員会割当について</li> <li>・学校ホームページについて</li> </ul>
8 月定例会	8 月 22 日 午前 10 時	役場 3 階会議室	5 人	1. 前回来議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 議案第 22 号 恩納村教育委員会事務事業点検評価外部評価委員会の委員の委嘱について 4. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中頭地区市町村教育委員会講演会に関するアンケートについて</li> </ul>
9 月定例会	9 月 22 日 午後 2 時	役場 3 階会議室	4 人	1. 前回来議概要の承認 2. 教育長の業務報告 3. 議案第 23 号 学校給食センター運営委員会委員の委嘱について 4. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 24 年度研修会における分科会協議議題案について</li> <li>・平成 23 年度市町村教育委員会研修会について</li> <li>・中頭地区市町村教育委員会第 3 回理事会報告について</li> </ul>

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
10月臨時会	10月6日 午前10時	役場3回会議室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回会議概要の承認</li> <li>2. 議案第24号 平成22年度恩納村教育委員会事務事業の点検及び評価報告書の件</li> <li>3. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上対策委員会及び青少年健全育成に係る「啓蒙用うちわ」の配布について</li> <li>・平成25年度文教施策とその予算処置に関する要請事項の提出について</li> </ul> </li> </ol>
10月定例会	10月21日 午前10時	役場3階会議室	4人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回会議概要の承認</li> <li>2. 教育長の業務報告</li> <li>3. 議案第25号 恩納村図書館建設検討委員会設置について</li> <li>4. 議案第26号 恩納村教育の日を定める要綱の制定について</li> <li>5. 議案第27号 公立法人名桜大学と恩納村教育委員会との連携・協力に関する協定について</li> <li>6. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度恩納村職員採用候補者試験実施要綱について</li> </ul> </li> </ol>
11月定例会	11月21日 午後2時	役場3階会議室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回会議の概要の承認の件</li> <li>2. 教育長の業務報告</li> <li>3. 議案第28号 恩納村教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について</li> <li>4. 議案第29号 恩納村体育指導委員に関する規則の一部を改正する規則について</li> <li>5. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・村長、副村長との意見交換会について</li> <li>・中学校統合に関するアンケート結果について</li> </ul> </li> </ol>
12月定例会	12月21日 午前10時	役場3階会議室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回会議概要の承認</li> <li>2. 教育長の業務報告</li> <li>3. 議案第30号 恩納村立学校管理規則の一部を改正する規則について</li> <li>4. 議案第31号 恩納村社会教育指導員の委嘱について</li> <li>5. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度市町村教育委員会教育委員・教育長研修会について</li> <li>・平成24年度中学校教育課程の編成について</li> </ul> </li> </ol>

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
1月定例会	1月23日 午前10時	役場3階会議室	4人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回概要の承認</li> <li>2. 教育長の業務報告</li> <li>3. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中頭地区市町村教育委員会連合会講演会について</li> <li>・ 安富祖小学校と台湾の小学校との交流について</li> <li>・ 平成24年度教育課程編成について</li> <li>・ 平成23年度県学力到達度調査について</li> </ul> </li> </ol>
2月定例会	2月23日午前10時30分	役場3階会議室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回会議概要の承認</li> <li>2. 教育長の業務報告</li> <li>3. 議案第32号 恩納村立博物館運営協議会委員の委嘱について</li> <li>4. 議案第33号 恩納村文化財保護審議会委員の委嘱について</li> <li>5. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 要請事項について</li> <li>・ 条例改正関係の報告について</li> </ul> </li> </ol>
2月臨時会	2月27日 午後1時	役場3階会議室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回会議概要の承認</li> <li>2. 議案第34号 平成24年度公立学校管理職及び教諭等の定期人事異動内示承認について</li> <li>3. その他協議事項</li> </ol>
3月臨時会	3月7日 午前10時	役場3階会議室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回会議概要の承認</li> <li>2. 議案第35号 恩納村幼稚園管理規則の一部を改正する規則について</li> <li>3. 議案第36号平成24年度教育委員会職員の人事異動内示（案）の承認について</li> <li>4. その他の協議事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職員の不適切な服務管理に係る対応について</li> </ul> </li> </ol>
3月定例会	3月23日 午後3時	役場3階会議室	5人	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前回会議概要の承認</li> <li>2. 教育長の業務報告</li> <li>3. 議案第37号 恩納村博物館非常勤館長の委嘱について</li> <li>4. 議案第38号 社会教育委員の委嘱について</li> <li>5. 議案第39号 恩納村社会教育指導員の委嘱について</li> <li>6. 議案第40号 恩納村スポーツ推進委員の委嘱について</li> <li>7. 議案第41号 恩納村教育相談員の委嘱について</li> <li>8. 議案第42号 恩納村心の教室相談員の委嘱について</li> </ol>

会議の名称	日 時	場 所	出席委員	案件等
				9. 議案第 43 号 平成 24 年度恩納村立各学校における学校医・学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について 10. 議案第 44 号 恩納村立幼稚園管理規則の一部を改正する規則について 11. その他の協議事項 ・ 図書館建設委員会の意見書について

なお、教育委員会で審議された案件を、分類すると次のようになります。(議事概要の承認、業務報告等定型的なものは除く。)

条例関係	規則・規定・要綱等	人事関係	その他	合計
0 件	1 7 件	1 8 件	9 件	4 4 件

### (3) 主催行事や学校行事への参加状況

教育委員会には教育委員会の行事や学校の行事など多種多様な行事があります。教育委員は、本村の教育行政の最高意思決定機関として、それらの行事に参加し、状況把握に努め、その結果を教育行政に反映させています。

平成 23 年度中における主催行事や学校行事等各種行事への教育委員の参加状況は、次のとおりです。

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
平 23 年 4 月 1 日	役場 2 階会議室・1 階会議室	平成 23 年度職員辞令交付式	島袋委員長・石川教育長
4 月 4 日	総合保健福祉センター	平成 23 年度教職員辞令交付式	全委員
4 月 日	名桜大学	名桜大学入学式	石川教育長
4 月 7 日	恩納小中学校体育館 石川高校体育館	中学校入学式 石川高校入学式	石川教育長 石川教育長
4 月 8 日	安富祖小中学校体育館 喜瀬武原小中学校体育館 仲泊小中学校体育館 山田小中学校体育館 恩納小中学校体育館	小中学校入学式 小中学校入学式 小中学校入学式 小中学校入学式 小学校入学式	渡口委員長 石川教育長 宜志富委員 宮平委員 島袋委員

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
4月11日	安富祖幼稚園 喜瀬武原幼稚園 恩納幼稚園 仲泊幼稚園 山田幼稚園	入園式 入園式 入園式 入園式 入園式	渡口委員長 石川教育長 宮平委員 宜志富委員 島袋委員
5月11日	恩納小中学校	スキルアップ研修	全委員
5月16日	山田小中学校	秋田県講師招聘研修会	宮平委員
5月17日	喜瀬武原小中学校	秋田県講師招聘研修会	石川教育長
5月18日	恩納小中学校	秋田県講師招聘研修会	島袋委員
5月19日	安富祖小中学校	秋田県講師招聘研修会	宜志富委員
5月20日	仲泊小中学校	秋田県講師招聘研修会	渡口委員長
6月13日	喜瀬武原小中学校	学校訪問	10時から17時 全委員
6月14日	恩納小中学校	学校訪問	〃 全委員
6月15日	仲泊小中学校	学校訪問	〃 全委員
6月16日	山田小中学校	学校訪問	〃 全委員
6月17日	安富祖小中学校	学校訪問	〃 全委員
6月30日	仲泊小中学校	地域懇談会	渡口委員長
7月9日	喜瀬武原小中学校	地域教育懇談会	教育長
7月15日	アミークスインターナショナルスクール	学校視察	全委員
7月21日	宇加地公民館	地域教育懇談会	渡口委員長
7月21日	塩屋公民館	地域教育懇談会	宮平委員
7月22日	山田公民館	地域教育懇談会	宮平委員
7月22日	安富祖小中学校	地域教育懇談会	宜志富委員
7月22日	真栄田公民館	地域教育懇談会	渡口委員長
7月25日	太田公民館	地域教育懇談会	石川教育長
7月24日	コミュニティセンター	うんなまつり幼稚園お話大会	渡口委員長
7月26日	谷茶公民館	地域教育懇談会	石川教育長
7月26日	恩納公民館	地域教育懇談会	島袋委員
7月27日	南恩納公民館	地域教育懇談会	宜志富委員
7月27日	瀬良垣公民館	地域教育懇談会	島袋委員

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
7月29日	役場2階会議室	校長会、教頭会合同研修会	渡口委員長
8月3日	役場第1階宜室	教育委員研修会	全委員
8月8日	ゆうなホール	村少年の主張・意見発表大会	渡口委員長、島袋委員、石川教育長
8月25日	中頭教育事務所	中頭地区教育委員会連合会理事会	渡口委員長
9月5日	ゆうなホール	「作者に学ぶ、授業者に学ぶ」研修会	全委員
9月12日	ゆうなホール	村英語ストーリースピーチコンテスト	渡口委員長
9月25日	赤間運動場	青少協中学校陸上競技大会	全委員
10月3日	那覇市民会館	沖縄県市町村教育委員会連合会研修会	渡口委員長、宜志富委員、宮平委員、教育長
10月9日	安富祖小中学校 恩納小中学校 仲泊小中学校 山田小中学校	運動会	宜志富委員 石川教育長 渡口委員長 宮平委員
10月20日	中頭教育事務所	中頭地区市町村教育委員会連合会理事会	渡口委員長
10月23日	喜瀬武原小中学校	運動会	石川教育長
10月28日	ゆうなホール	村童話お話大会	渡口委員長、石川教育長
11月2日	ゆうなホール	村中学生フォーラム	渡口委員長、石川教育長
11月16日	安富祖小中学校	未来塾開校式	全委員
1月4日	コミュニティセンター	24年成人式	全委員
1月21日	ゆうなホール	平成23年度学力向上実践発表大会	全委員
1月27日	役場2階会議室	学対関係コンクール表彰式	渡口委員長、宮平委員、石川教育長
2月17日	名桜大学	名桜大学との協定調印式	島袋委員、宜志富委員、石川教育長
2月23日	安富祖小中学校	安富祖校児童と台湾の学校との通信交流授業	島袋委員、宜志富委員、石川教育長
3月11日	安富祖小中学校体育館 喜瀬武原小中学校体育館 恩納小中学校体育館 仲泊小中学校体育館 山田小中学校体育館	中学校卒業式 小中学校卒業式 中学校卒業式 〃 〃	島袋委員 渡口委員長 石川教育長 宮平委員 石川教育長
3月16日	安富祖幼稚園 喜瀬武原幼稚園 恩納幼稚園	卒園式 卒園式 卒園式	島袋委員 渡口委員長 石川教育長

期 日	場 所	行事等の名称	備 考
3月16日	仲泊幼稚園 山田幼稚園	卒園式 卒園式	宮平委員 宜志富委員
3月19日	安富祖小学校	小学校卒業式	島袋委員
3月21日	仲泊小学校 山田小学校	小学校卒業式 小学校卒業式	宮平委員 宜志富委員
3月22日	恩納小学校	小学校卒業式	石川教育長
3月30日	役場2階会議室	村職員退職辞令交付式	渡口委員長

#### (4) 研修会や懇談会

教育行政の推進には教育委員の資質向上は必要不可欠です。そのため、各種の研修会に積極的に参加し、他市町村の状況を把握すると共に教育委員としての知識の向上に努めています。また、地域の声を村教育行政に反映させるため、村内の各団体との意見交換会や懇談会を開催しています。

平成23年度の研修会や懇談会等への出席状況は、次のとおりです。

日 時	場 所	研修会等の名称	備 考
5月12日から13日	豊見城中央公民館	沖縄県市町村教育委員会連合会定期総会及び研修会	全委員
6月2日	読谷村文化センター	平成23年度中頭地区市町村教育委員会連合会研修会	渡口委員長、宜志富委員、島袋委員、宮平委員
8月9日	役場2階会議室	恩納村区長会との意見交換会	全委員
10月3日	那覇市民会館中ホール	平成23年度沖縄県教育委員会連合会研修会	渡口委員長、宜志富委員、宮平委員、石川教育長
12月6日	役場1階会議室	村長との懇談会	全委員
2月2日	中頭教育事務所	平成23年度中頭地区市町村教育委員会連合会研修会	全委員
2月3日	沖縄県庁	沖縄県市町村教育委員会連合会研修会	全委員

### 3 事務の点検評価について

平成 23 年の事務の点検及び評価の項目は、効果的かつ効率的な事業の実施を行うため、前年度の課題克服に向けた取り組みとその結果を明確にし、その結果を踏まえて、事業効果を判断し、継続すべきか、規模拡大又は規模縮小、または廃止まで踏み込んで評価を行いました。

事業評価シートの項目は、前年と同じ「事業項目」、「実施目標」、「前年度の課題」、「課題克服に向けた取り組み」、「事業の成果」、「今後の課題」、「評価」、「総合判断」の 8 項目としました。

総合判断では、事業の成果と費用対効果を勘案し、

- ① 現状の内容で継続、
- ② 事業規模を拡大又は縮小して継続
- ③ 事業の廃止

の 3 項目で判断しました。

事務事業の点検・評価は、前年度に実施した事業について、すでに現年度の事業が進んでいる時点で行われることから、課題に対する取り組みは既に評価の時点で事業が終了していた場合など当該年度では取り組めないこともあり、実質的な課題解決に対する取り組みは 1 年遅れになることがありますが、この事業点検評価を翌年度の施策、事業の改善に役立てるものとしします。

評価の方法については、次のとおり 5 段階で評価しました。

S：目標以上に事業効果をあげることができた。

A：目標が達成できた。

B：目標が概ね達成できた。

C：目標が一部しか達成できなかった。

D：目標が達成できなかった。

以上によって評価された平成 23 年度の結果は次のとおりです。

事務事業評価シート

(1) 学校教育関係所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
教育委員会研修事業	各種の研修会に積極的に参加し、教育委員各自の教育に関する見識を高める。	更なる自主研修の実施と地域教育懇談会への参加及び他団体との意見交換会等の取り組み。	自主研修を計画・実施する。 他団体との意見交換会を実施。	アミークスインターナショナル視察研修の実施。 村長・区長・名桜大学・近隣町村との情報交換会の実施。	県市町村教育委員会連合会や中頭地区市町村教育委員会連合会事務局としての積極的な関わり方。	B	①現状の内容で継続
人材育成事業	教員志望者に対し、教員採用試験に関する講義や演習を実施し、対策に資する。	講義や演習内容の検討。	より実践的な演習と講義内容にする。	合格者の学習方法、民間対策塾講師による講話を開催した。4回の講座に15名の参加。採用試験に1名合格。	沖縄関係、一般教養にジャンルを限定した演習の実施。	B	①現状の内容で継続
学校事務職員研修事業	学校事務職員の事務能力の向上及び効率化を図るため、毎週水曜日の午前中、拠点校に集って給与、服務、文書等の取り扱いについて共通理解と点検を行う。	平成24年度からの学校事務の教育委員会権限移譲に伴う拠点校の指定及び人的配置・教育事務所との連携を図る。 学校訪問時における関係文書の点検を実施する。	事務職員研究会への教育委員会としての積極的な関わり方。	拠点校を恩納校に指定し、給与・服務の点検に当たった。不適切な職務専念義務免除に対する事務についてもスムーズに処理された。また、臨時的任用職員配置校の支援に当たった。	学校管理規則改正と事務事業の権限移譲に係る運営への関わり方。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
学校評議員設置事業	村民の意見を学校経営に取り入れることで地域に開かれた学校づくりを推進するため、各学校に5名以内の学校評議員を配置した。	学校評議員の意見を取り入れて改善している項目とまだ改善されていない項目がある。取組みについての学校格差も存在する。	学校評議員の意見を取り入れて改善している項目とまだ改善されていない項目がある。取組みについては学校間格差がある。	学校評議員の意見については、関係法令及び各種施策に基づいて指導・助言にあたる。	評議員会議の内容の改善点について、学校経営方針にどのように反映されたのかの報告を求める。	B	①現状の内容で継続
校長会・教頭会・校務研修会事業	教育関連法規の改定や教育委員会による事業説明、質疑・応答を通して共通理解を図り、学校経営に資する。現場の課題についての情報交換をし、課題を明確にし、教育行政に反映させる。	校務研究会の内容と村の施策との整合性や新学習指導要領完全実施に向けての共通理解が不足している。	管理者としてのあり方や国・県・村の主要施策についての共通理解を図る。	校長・教頭会で村の方針等について説明。元中頭教育事務所長玉城氏による管理者に期待することと題して講演を実施。中学校指導要領全面実施に向けての教育課程編成についての共通理解を図った。富山県山室中部小学校研修を終え、学校の経営へ取り入れている。	各学校による主体的な教育課程の「質」と「量」の管理と各教師の教育課程に対する意識変革(週案)。	B	①現状の内容で継続
教育相談事業	各種の事情により配慮を要する幼児児童生徒とその保護者の相談に応じ、必要な助言をする。	チラシやポスターの配付や村広報に掲載し、周知を徹底する。学校訪問を実施する。	チラシを印刷・配付したり、村広報に掲載したりして啓蒙を図る。	チラシを各学校へ配付し、村広報誌でも掲載した。学校計画訪問で説明した。	軽度発達障がい者等特別に支援を要する児童生徒への相談。	B	①現状の内容で継続
教育委員会学校計画訪問	村の教育施策との整合性及び校務全般の管理・運営状況を確認し、学校経営に資する。	幼稚園視察や給食参観・教育委員会と教職員が意見交換する場を設定する。サービス関係文書の点検をする。	登校の様子から観察し、幼稚園視察及び全体での場の設定をする。サービス関係についての点検。	学校説明会の実施と総括時間を設定し、意見交換を図った。 出勤簿・出張命令簿・休暇処理簿の点検を実施した。	各学校の児童生徒の朝の登校と活動状況視察の確認と授業参観の時間を多く取ること。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
中学生フォーラム事業	生徒会に係る課題等を協議することにより生徒会活動の活性化と企画力、発表力、表現力、協調性を育成する。	生徒会役員同士の発表・質疑・応答と、質疑カードを書かせ、深まる内容を取り上げることでマンネリ化を防ぎたい。	生徒会担当者会で、実施方法について共通理解を図り、実施する。	夏季休業中にミニ生徒会リーダー研修会を実施し、課題を共有した。フォーラムまでの事前期間にテレビ会議システムを活用し、学校間の進捗状況等の情報交換を実施した。ワークシートを活用して質問させる等の工夫をした。	各中学校の生徒会のリーダーを育成し、各学校でその成果を発揮する取り組みにする。新教育課程の授業時数増加により中学生フォーラムは廃止し、リーダー研修会へ変更する。	B	②事業規模を縮小して継続
奨学資金貸与事業	経済的な理由により、学資の援助を必要とする者に対して学資の一部を貸与し有用な人材を養成する。	貸付金の回収については継続的な請求通知を要し、回収の課題に対し、返済責任のある保護者及び連帯保証人への請求も含め強化し、年間計画を作成し、奨学金貸付の原資確保に努める。	奨学金申込者数に増加の傾向があり、予算の範囲で県内外の募集枠を調整し、申込者全員を決定するように努めたが、県内大学応募者の9名に対し貸与することができなかった。償還事務は、請求通知の回数を増やし、償還機会を多くすることによって償還率を向上させ、後年度の奨学資金確保に努める。更に昨年に引き続き自動送金システムの推進等を行い、償還環境を強化する。	申込者42名に対し予算の範囲内で33名に貸与した。奨学金償還は、請求通知を年2回行った結果、1件(168万円)の大口償還及び6件の償還終了者があったが、償還総額は微増にとどまり、大きな成果は得られなかった。貸付実績は、県外16名、県内17名で11,820,000円の貸付額となった。	増加傾向にある奨学金申込者に対応するため、次年度より募集要項等を改正し、募集枠の改善を行う。奨学金償還は、請求通知回数を更に増やし、連帯保証人等への償還義務の周知を行い、長期未納者対策を講じ、奨学金貸付の原資確保に努める。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
職場体験学習事業	村内5校の中学2年生を対象に正しい職業観・勤労観を身につけさせることをねらいとする。	学校より、職場体験の事前・事後の学習に違いがあり、村内一貫した指導に変更する必要がある。 職場開拓や職場への事前説明が必要。	キャリア教育の視点を踏まえた活動に結びつくように体験学習の趣旨を書いたしおりを担当者へ配布した。また、事後学習として夢作文を募集することで活動の振り返りを図り、具体的な目標の設定へと結びつける手立てとした。	職場体験学習を通して、生徒の仕事に対する理解（職業観）が育まれる面がみられた。また、事後学習の振り返り活動にワークショップを取り入れた活動をすることで、体験活動で学んだことを共有化できた学校も見られた。	学校現場が行う職場開拓を教育委員会が実施しているため、担当職員の職場との連携が受身になりやすい。また「なりたい自分」「なれる自分」の広がりや重なりを認識できる学習活動が必要である。	B	①現状の内容で継続
幼稚園教員研修事業	村内5幼稚園教諭の資質の向上を図る。幼稚園運営に関する意見交換を行い、改善に関する方策を策定する。	村内研修会に対する指導主事の参加が必要である。県内外研修会への幼稚園教諭の派遣が必要である。	幼稚園の課題についての情報交換会や日常における情報行動連携を行う。	毎月幼稚園教諭研修会を実施し、園の運営や指導について研修した。教育委員会との意見交換会を実施した。	幼稚園教諭研修会への指導主事の関わりは引き続き課題となっている。村外への研修に参加させるための条件整備が必要である。	B	①現状の内容で継続
幼稚園の絵本整備事業	絵本に親しむ幼児を育成するため、図書備品の拡充を図る。	親子読書や地域での絵本活用状況の把握が必要である。	幼稚園絵本整備は、例年どおり行い、絵本の充実を図った。	幼稚園会への参加・情報交換等を密に行い、今年度は、村内5幼稚園で絵本64冊の整備を行った結果、園児への絵本保育の充実が図られた。	絵本整備は順調に行われているが、幼稚園現場との更なる連携を行い、読み聞かせ等の幼児期における本に対する興味を引き出し現状の事業を充実させる。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
幼稚園管理備品・保育振興備品整備事業	幼稚園教育に関する備品及び保育環境の充実を図る。	幼児の発達課題及び幼小連携に応じた備品の中長期的な購入計画を作成する。	各幼稚園での備品整備状況等を確認し、要望のある備品整備を必要度の高い順に行う。	各幼稚園での保育に関する備品整備を行い、保育環境の充実が図られた。	各幼稚園での備品及び遊具等を確認し、整備状況を更に向上させる。	A	①現状の内容で継続
特色ある幼稚園教育の推進	幼稚園の自然環境・人的環境を生かした特色ある保育活動を実施する。	幼小連携や地域人材を生かした保育活動の実施を行う。	保護者・地域を巻き込んだ保育活動の実施。	親子や祖父母を招いての行事の実施。	幼小中連携した特色ある教育活動の実施。	B	①現状の内容で継続
教育振興備品整備事業	学校の要望に基づく教材備品を拡充することにより、効果的な学習が行えるようにする。	教育委員会による各学校の全備品管理システムの構築を図る必要がある。定期的な備品に対する監査を実施する。	定期的に備品管理システムの確認を行い、昨年に引き続き備品監査の実施及び適切な購入・廃棄を行う。	継続的な備品監査の実施及び備品購入計画・要望等の提出が図られた。	前年度購入備品の監査を実施し、特色ある教育活動及びモデル的教育に対する備品の購入。	A	①現状の内容で継続
就学支援事業	一定の条件を満たした家庭の児童生徒に対し、学資を援助して経済的に恵まれない児童生徒の教育を支援する。	支援業務の保護者への周知徹底	事務職員との連絡を密にし、援助の必要があるであろう児童生徒の家庭には直接連絡を取り、申請を勧めた。	事務職員と連帯したことによって、円滑に支援できた。学用品・医療費・メガネ購入費・給食費等の援助。認定者数小学校 82 名、中学校 65 名	今後も学校との連帯が必要。また、支援業務の更なる周知徹底を図る為、村ホームページ等への掲載を行う。	A	①現状の内容で継続
心の教室相談員事業	児童生徒のストレスや悩みを和らげ、健全な学校生活を営むことができる学校環境を整備する。	相談員の専門的な力量を高める必要がある。	村内に、臨床心理士の確保による心の教室相談の拡充を推進する。	臨床心理士の確保に至らず、現状の人材による配置となった。報告書の内容検討を実施。	不登校児童生徒に対する個別の対応方法についての検討し実践する。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組み	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
情報教育推進事業	各学校の児童生徒のコンピュータ操作能力及び活用能力の向上を図る。	情報教育支援員の配置と情報教育全体計画の策定が必要である。情報教育機器の活用が不十分である。	情報教育支援員の活用による情報教育機器の活用。	アジアの学校との学校間交流が進んだ。授業における情報機器の活用が活発になりつつある。ホームページ・メーリングシステムの構築が進んだ。	総合教育センターと連携して生徒情報管理システムを導入し、校務の軽減を図る。	A	①現状の内容で継続
学習支援員配置事業	学校教育の最大の課題である児童生徒の学力向上に資するため、各学校へ学習支援員を配置し、算数・数学を中心としたきめ細かな指導を実施する。	指導方法や指導体制に学校間格差があり、効果的活用についての共通理解が必要である。	成果を上げている学校の指導体制についての情報を提供し、その改善を図る。	各種学力調査から一部効果が見られるが抜本的な改善にまで至っていない。地域学習塾へ積極的に参加している。	スキルアップ研修会での支援員部会を立ちあげ、授業展開に関する研修会を開催する。	C	①現状の内容で継続
特別支援員配置事業	障がいのある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援する。	特別支援教育支援員配置についての基準が明確でない。	特別支援教育支援員配置要綱の整備と活用に向けての研修会を実施する。	特別支援教育支援員配置要綱の整備と村教職員研修会の実施。	特別支援教育に係る個別の支援教育についての担当者研修会の実施。	A	①現状の内容で継続
英語指導助手派遣事業（ALT）	ネイティブを配置することにより、児童生徒の外国語「英語」力の向上を図る。	小学校と中学校の英語活動・学習の連携を図る。	小中が連携してネイティブの活用について計画し、実践する。	英語指導教員と英語指導助手「ALT」の連携が図られているため、中学校2年生の県到達度調査では、県平均を突破。	中学校指導要領の完全実施に伴う指導時間数増加による対応。	B	①現状の内容で継続
対外競技派遣事業	児童生徒の文化的、体育的活動「部活動」の振興を図る。	児童生徒の派遣については、今後とも最大限に対応することが望まれる。	各学校の部活動が充実し、県内外への派遣費用の予算確保を図った。	野球・バドミントン・ソフトボール・陸上等の県内外への派遣費用の充実が図られた。	後年度も継続して各部活動の充実を図るため対外競技派遣費用の確保を行う。	S	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
中学校部活動支援事業	中学校の文化的、体育的活動「部活動」の振興を図る。	今後とも、部活動活性化のための人材及び活動予算の確保が必要である。	文化的・体育的活動の充実を図るため活動予算の確保を行う。	各学校への部活動予算の配分を行い、消耗品等の充実が図られた。	各部活動の更なる発展を推進するため継続的な活動予算を確保する。	A	①現状の内容で継続
知能検査標準学力検査事業	児童生徒の学力の定着状況を把握し、指導法の工夫改善に役立てる。	検査結果の活用方法について学校差がある。	調査後に説明会を実施し、調査結果の効果的な活用方法についての具体的な手立てを示す。また、各学校の検査調査評価担当中心にデータの管理を行う。	調査について内容が、学校説明会やリーフレットに反映する学校が見られた。客観的に学力の判断材料として、効果的に活用する場面が見られた。知能と学力の相関関係について分析する学校が出てきた。	調査結果の活用について学校差がまだ見られる。学校の児童生徒のつきたい力を明確にする必要がある。	B	①現状の内容で継続
安富祖小中学校施設整備事業	安心・安全な教育環境の確保	今後、既存校舎の修繕及び改修予算の確保。	既設校舎の修繕を行いました。	既設校舎の修繕をすることにより、より良い学習環境を確保することができた。	今後、既設校舎の空調設備については、関係機関と調整を行い事業化に向けて取り組んでいく必要がある。	A	③事業終了
山田小中学校施設整備事業	安心・安全な教育環境の確保	校舎改築業務	校舎改築業務	老朽化した校舎を改築した事により、校舎の耐震性が確保でき、又設備等の充実が図られ、よりよい学習環境を確保することができた。	今後は、校舎周辺の外構工事と仮設校舎として使用していた特別教室棟の改修を進める。	A	① 現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
学校施設持管理事業	適切な学校の施設及び設備の維持管理を行なうことによるよりよい教育環境の確保	各学校のプール施設及び既存校舎の空調設備が老朽化しているため、故障が多いので、修繕及び改修の予算の確保	各学校のプール施設及び既存校舎の空調設備の老朽化に伴う修繕及び改修についての予算の確保。	各学校のプール施設及び既存校舎の空調設備は、修繕を行うことにより、よりよい学習環境の確保ができた。	各学校のプール施設及び既存校舎の空調設備は、老朽化が進み修繕等については予算の確保を行い、大規模改修等については、関係機関と調整を行い事業化の取組みを行う必要がある。	A	① 現状の内容で継続

(2) 社会教育関係所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
青少年団体等活動助成事業	青少年団体等が実施する活動を支援し、体験活動等とおして健全な青少年の育成を図る。(4団体目標)	平成14年度に完全学校週5日制が施行され、年月が経過し定着しており、新たな展開が求められる。	学校週5日制実施に伴う活動に限らず、事業対象となる活動の条件を緩和し、子ども会育成者研修会において趣旨説明等の周知を図った。	実施団体2団体(参加者59名)前年度比1団体(42名)の増加であるが、目標とした4団体実施に届かず、更なる周知徹底が必要である。	子ども会への周知に留まらず、他の各種青少年団体等への周知を図ることが必要。スポーツ団体や読み聞かせ団体との連携。	C	①現状の内容で継続
国際交流派遣事業	創造性、積極性、国際性に富み、グローバルな視点で物事を考察できる人材の育成を目指す。(中高校生対象、6名、但し、応募が少ない場合には大学生も対象)	参加申込者が減少傾向にあり、周知の方法を工夫すると共に、英語ストーリーコンテスト等との連携や、研修後の参加者による意見発表等の機会を学校等で設けてもらうなど、啓発活動の改善が必要。	事業周知を図るため、村立各中学校、村内公民館、近隣高等学校へ文書の発送、広報無線放送マイクでの募集を行った。	取組にあげたように周知を図ったが、募応募者が4名(大学生1名、高校生1名、中学生2名:1名は、英検の取得なしのため派遣資格なし)と減少し、派遣予定人数6名に達する事ができず、3名の派遣に留まった。しかし、前年度に英語ストーリー・スピーチコンテストに出場した子の応募があり、この面では収穫があった。(前年度:中学生6名)	これまでの周知方法以外に、村ホームページへの掲載、村広報紙への掲載、近隣高等学校への文書発送先の拡大を図る必要がある。また、出発前の激励会や帰国後の報告会等の開催や率先して英語ストーリースピーチコンテスト等への出場に関し学校側との連携が必要。	C	①現状の内容で継続
サバイバルキャンプ事業	無人島においてキャンプを行うことにより、自然に親しみ、仲間と協力することで協調性を育み、健康で心豊かな青少年の育成を図る。	事業目標やプログラムの検討を行い、事業の目的を促進すること及び安全確保の徹底と児童生徒への指導、支援においてスタッフの資質の向上に努める。	昨年同様、日程を2泊3日とし、プログラム内容が重複しないように実施した。	台風による延期はあったが50名の参加があり、前年度同様に基本的な活動に集中して取り組む事ができた。(ジュニアリーダー:13名、5年生:37名)	引き続き、事業目標やプログラム検討を行いながら、事業目的の再確認及び安全確保の徹底を図り、参加者を含め、ジュニアリーダーの意欲の向上を図る。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
成人式事業	村内の各団体の代表者が一堂に会し、新成人を励まし、祝う。	今後とも新成人の自主的な参画を推進すると共に、広報紙を活用し、実行委員の活動及び心境等を紙面で表現し、啓発活動へとつなげたい。	本年度は、昨年度の実行委員からの推薦で実行委員会を立ち上げ、式典後の祝賀会の企画・運営を行った。また、広報紙で実行委員会の活動報告を行った。	成人式該当者9名が実行委員を組織し、祝賀会を進行する事で、自ら成人を祝う事ができた。 (前年度実行委員：4名)	早めの実行委員の募集や各字青年会等からの推薦により実行委員会を立ち上げ、時間をかけて企画・運営に取り組む。	A	①現状の内容で継続
シルバー教室 ・認知症サポーター講座 ・切り紙細工教室 ・老老介護教室 ・移動教室「県内中部」 ・グラウンドゴルフ上達法	高齢者が仲間とのふれあいを通して、生きがいをづくりの機会とする。 全4回	参加者が高齢化し、体調管理、怪我予防等安全対策への配慮が必要。 ・老人会新会員への参加呼びかけを積極的に行い、参加者の拡大に努める。 ・開催回数が多く、全ての講座に参加できないとの意見もあり、開催回数の見直しが必要。 ・講座の内容を学校等でのボランティアに繋がるような講座づくりに努める。	がんじゅう大学開催日を把握し、教室が重ならないようにするとともに、開催回数を減らすなど、参加に無理が生じないように配慮した。また、楽しみだけではなく、これから生活していくうえで、必要と思われる教室を企画し、参加者の呼びかけを、村老人クラブ連合会および各字老人会へ行った。	日程確認・内容等の検討を行ったが、自らが楽しめる教室だけに参加者が集中し、今後、生活する上で必要と思われる教室への参加が少ないため、延べ34名と参加者がかなり減少した。(認知症サポーター養成講座や老老介護教室などでは、直に体験している方、これから必要と感じている方のみ参加者に留まった。)また、グラウンドゴルフ上達法については、2度の天候不良により、開催する事ができなかった。 (前年度：120名)	楽しめる教室も行いながら、老後の生きがいをづくり、居場所づくり(サークル化)、更には年度末に開催される成果発表会の出場等へ繋がるような教室の内容を検討する必要がある。また、屋外で行う講座については、雨の少ない時期に行う等の配慮が必要である。	C	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
<p>生き生き女性教室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かぎやで風マスター教室</li> <li>・デジタル・パソコン教室</li> <li>・介護の基礎講座</li> </ul>	<p>学習機会をとおして資質や技術の向上を図り、女性の地域づくりへの参加を推進する。併せて、受講を機に地域でのサークル活動に繋げ、生涯学習の啓発の場とする。 全5回</p>	<p>同じ講座を継続して受講したいとの要望が多く、講座修了後のサークル活動への指導・助言等の支援が必要。また、個人の楽しみに終始することなく、社会貢献や、地域のリーダー育成に繋がる講座づくりに努める。</p>	<p>本年度は要望が多かった継続講座の「デジタル・パソコン教室」に重点を置き、社会生活や社会貢献として必要と思われる「介護の基本講座」を企画し、教室を開催した。</p>	<p>延べ46名の参加と人数が減少しているが、継続講座を開催する事で、デジタル・パソコンの基本的操作を身につける事ができた。「介護の基本講座」では参加者が少なかったが、実際に介護に携わる方が参加する事で、日頃の悩みの解消に繋がった。(前年度：95名)</p>	<p>次年度も継続講座を重点に企画するが、サークル化への支援や現在活動が低迷している婦人団体の活性化に繋がる教室を開設する必要がある。</p>	C	①現状の内容で継続
<p>成人教室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動教室 ～沖縄本島民俗芸能祭鑑賞：恩納村の豊年祭～</li> </ul>	<p>ストレス等により不健康な生活を送りがちな働き盛り世代を対象に、文化教養、健康管理等の学習をとおして資質の向上と生き甲斐づくりを図りつつ、地域活動への啓発を図る機会とする。(全2回)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人材を把握し、更なる活用を図ることに努める。</li> <li>・各教室及び講座などの成果を発表し、生涯学習活動の啓発を図るため、成果発表会を新たに企画する必要がある。</li> </ul>	<p>本村の伝統芸能である豊年祭が開催されている「名嘉真、安富祖、瀬良垣、恩納、南恩納、仲泊」が出演するとの事で、伝統芸能の継承への重要性和意識付けを図るため企画した。</p>	<p>事業計画後、国立劇場側とチケット確保の調整を行ったが、当初予定していたチケットの確保ができなかったため、事業を開催する事ができず中止となり、事業を開催することができなかった。</p>	<p>青年教室と同様に、あらゆる活動への意識改革に繋がる講演会など、内容が重複しているので、青年教室に取り入れて開催する事とし、事業を終了する。</p>	D	③事業の廃止（終了）
<p>青年教室</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーチングセミナー ～今がスタート1ゴールのを見つけ方～ (1回)</li> </ul>	<p>将来を担う人材育成の一環として、文化・教養・健康・地域づくりなどの学習の機会を提供することで、視野を広め、参加者の資質の向上と社会参加への意欲を高める。(全1回)</p>	<p>参加者が思うように集まらず、教室の開催方法や広報の方法などを工夫すると共に青年団協議会との連携を図り参加者の拡大に努める。</p>	<p>進路や就職に悩んでいる青年が多い事から、意識改革と悩みの解決の仕方を目的として企画し、村広報マイクや村青年団協議会を介して、周知を行った。</p>	<p>広報マイクや村青年団協議会を介して開催周知したが、8名の参加となった。しかし、参加者からは大変勉強になり、同じように悩んでいる方が多いので次年度も開催して欲しいとの意見があった。 (前年度：14名)</p>	<p>意識改革に繋がる内容の教室であったが、村青年団協議会だけでなく、各字青年会や各字へ開催周知を徹底して、参加者の増に引き続き努める。</p>	C	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
子ども教室 ・EM だんご作り ・安全実験とエコで安全な石鹼作り ・地産地消体験 ・昔体験教室 ・ビーチストラップづくり	子どもの生きる力を育成し、併せて地域の文化、産業にふれる機会とし、地域の人々との交流や仲間づくりの機会とする。 (全6回)	・学習内容が多岐にわたるよう情報の収集と活用を図ると共に広報活動を工夫し参加者の拡大に努める。	村内企業や農家、村内で環境やエコに精通する方を講師に招き、環境問題やエコに対する意識付を図った。また、地域の老人を講師として招き、昔の農作業の体験教室を開催し、子どもたちと老人の交流の場をつくった。	延べ 59 名の参加があり、村内で環境やエコに精通する村出身者を講師として活用することで、環境問題を身近に体感する事ができ環境問題を考える機会となった。 (前年度：29名)	学校での調理実習やO I S Tでの子ども科学教室など、同様な事業が開催されており、又各子ども会等でも様々な活動がされており、内容が重複していると思われるため、事業を整理する必要がある。	B	③事業の廃止（終了）
親子教室 ・親子でワークショップ～街づくりシュミレーション～	家庭内外の教育環境を見つめ直し、親子のふれ合いと家庭の教育機能の向上を図る機会とする。 (全1回)	家庭・地域での教育力の向上が、総合的な学力の向上に繋がることを認識し、事業を推進し、参加者の拡大に努める。	親子で街づくりのシュミレーションを体験する事で、政治への関心を高める事を目的として講座を開設した。	土日の開催であることと親子同伴での参加が義務であったことや教室内容が高度すぎたためか、参加申込者がなく、教室を開催する事ができなかった。 (前年度：22名)	他団体で実施している事業で同様の事業が多く、整理が必要と思われる。家庭教育力の向上を図る活動としては、講演会等の実施により推進していく。	D	③事業の廃止（終了）
らくらく子育て教室 ・名前絵本づくり ・親子わらべ唄あそび 講演会「トイレトレーニング」 ・リズムあそび お菓子づくりトラッピング	親子のふれあいの大切さを再認識し、子どもたちの「生きる力」を育む基礎的な資質や能力を育成する場である家庭の教育機能の回復及び参加者相互の情報交換と仲間づくりの場とする。 全5回	支援センター以外での開催や、福祉健康課の検診事業との連携を図り開催する等参加者の拡大に努める。	前年度は支援センターのみの開催で片寄っていたので、午後から利用可能である幼稚園を利用して教室を開催した。	延べ 147 名の乳幼児を持つ親子の参加があった。本年度も支援センターを利用する方の参加が多かったが、参加者相互の交流と子育ての悩みの解消と楽しさを分かち合える場に繋がった。 (前年度：95名)	福祉健康課からの施設利用要望もあるが、前年度同様に支援センター以外での開催も引き続き検討する必要がある。教室内容については、支援センター職員の意向も確認する必要がある。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
地域リーダー研修 ・地域づくり講演会	村内各地域及び団体間の交流を深めると共に地域のリーダーとしての資質の向上を図り、地域づくり、人材育成に繋げる機会とする。 (全1回)	地域のリーダー育成を目指し、継続していくこと。村内各字から参加させ、地域づくりの課題と取組みを共有し、学びを実践に繋げ、地域づくりに努める。	地域や団体で悩みを解決するために、地域活動が活発で、リーダー育成がスムーズに行われている地域の代表者を講師として招いた。	46名の参加があり、リーダー育成がスムーズに行われている地域の取組を直に学ぶ事で、各団体等が持っている悩みの解決方法の糸口に繋がった。 (前年度：49名)	これからもリーダー育成を目指し、継続する必要がある。また、他地域の経験だけを学ぶだけではなく、各地域の抱えている課題の共有化を図る。	B	①現状の内容で継続
専門分野研修 ・マンガ・雑誌から見えてくる性とデートDV ・緊急災害対策講座 ・読み聞かせスキルアップ（朗読劇制作）	ボランティア活動で地域に寄与している方々を対象に活動に必要な資質の向上を図ると共に相互の交流を図る機会とする。 (全6回)	参加者の拡大を図るため、講座の説明や紹介に積極的に努める。	読み聞かせについては、現在ボランティア活動を行っている方だけでなく、広く村内へ呼び掛け、また、朗読劇の制作という最終目的を設定して、開催した。	延べ66名の参加があり、読み聞かせについては4回という中で朗読劇を仕上げ、移動図書館の中で成果発表する事ができた。また、緊急災害対策講座では、大震災後のボランティア活動報告や対策や避難の方法などの意見交換等が有意義な講座を開く事ができた。(前年度：173名)	読み聞かせについては、呼びかけを更に拡大し、学校支援活動へ活かし、今年度作り上げた朗読劇を各校や保育所等で披露できるように支援が必要。 ・内容等に他課との重複がないよう企画し、家庭教育力の向上を図る講演会等に取り組む。	B	①現状の内容で継続
公民館講座 (全5講座開設)	村民に対して学習機会を提供するとともに指導者養成を図る。	公民館講座の周知徹底を図り、継続して事業が実施できるよう努める。また、成果発表会を開催し、受講者の発表の機会を設ける。	本年度も広く村内各公民館へ開設の周知をした。公民館講座を開設するにあたり、年度末に開催する成果発表会への出演依頼、成果品の展示の依頼を行った。	5講座が開設され、延べ615名の参加があった。講座で学習した内容を、敬老会や成果発表会等で活かされ、発表の機会を持つ事ができた。また、サークル化したいという区長からの声も聞かれた。 (前年度：679名)	一回限りの講座でなく、サークル化への啓発や支援を継続して図る。また、婦人団体を母体として講座申請が多いので、あらゆる団体から申請してもらえるように周知を図る。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
青少年劇場小公演事業	優れた芸術を直に鑑賞し、感動と喜びを与えることを目的とする。県文化課からの受託事業。	継続して、村内の各学校において、実施できるよう努めていきたい。	事業が継続して受託できるよう、県文化財課との連携を密にし、学校への周知においても継続して努める。	安富祖校で実施。様々なリコーダーで演奏される聞き慣れた音楽に、児童生徒並びに教職員からも好評で、音楽への関心が高まったとの感想もあり、効果が見られた。	演奏会方式で実施されているが、今後は児童・生徒からの発表等も交えての事業展開ができないか、検討が必要である。	A	①現状の内容で継続
村青少年健全育成事業	村の補助事業として村内各団体で青少年健全育成協議会を組織し、次代を担う青少年の健全育成を図る。	夜間街頭指導を継続すると共に各団体と連携を強化し、チラシ等による家庭・地域の教育力の向上に努める。	少年補導員、石川署、各学校PTA、民生・児童委員等と連携し、夜間街頭指導を実施した。 ・今年度は来沖している大学教授を講師に招いての講演会を開催し、生活習慣の適正化など家庭教育力の向上を図った。	夜間街頭指導への参加者は延べ113名。指導を実施することにより、コンビニ等での夜間外出防止への啓発活動が行われた。 ・講演会開催日が2学期終了式と重なり、参加者が40名と少なかったが、参加者からは幼児・児童の生活習慣の大切さが認識できたと好評であった。	夜間街頭指導については、各団体や学校の生徒指導担当との連携を密にし、街頭指導の方法や、巡回場所の調整等が必要である。 家庭・地域の教育力の向上を図るためあいさつ運動ののぼり旗やチラシ等を活用し啓発活動に取り組む。	B	①現状の内容で継続
人材育成激励金支給事業	教育、芸術、文化 <sup>スポーツ</sup> の分野において優秀な成績を収めた個人に対し、激励金を支給することにより、人材育成と教育、芸術、文化、 <sup>スポーツ</sup> の振興を図る。	<sup>スポーツ</sup> 競技においては村民への周知が図られてきているが、教育、芸術、文化の分野において、事業の周知を図り、各分野の振興に努める取り組みが必要である。	教育、芸術、文化面で優秀な成績を収めた情報が入手できた場合は、直接個人への周知等を行った。	スポーツ競技は22年度の33件に対し、69件と増え、文化面においても1件の激励金支給があった。 ○スポーツ面 ソフトボール 48件 バドミントン 13件 サッカー 4件 駅伝 2件 バレー 1件 ○文化面 声楽 1件	広報紙等を活用し、継続して事業の周知徹底に努めていきたい。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
図書館準備室運営	公立図書館の設置に向け、必要な事務を行うと共に、住民に対し、図書館サービスの提供を図り、読書活動を推進する。	前年度取組 無し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・庁舎内において、図書館建設検討委員会を組織し、年度内において4回の委員会、7回の作業部会を開催し、建設候補地の選定等について審議した。</li> <li>・県立図書館や近隣の公共図書館と調整し、住民への図書貸し出しサービスの一部を開始できるよう取り組んだ。</li> <li>・住民アンケートを実施し、図書館の基本計画に反映させる各世帯へ配布。回答者183名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館建設候補地について審議し、3月に村長への意見書を提出することができた。</li> <li>候補地は、博物館に隣接する村有地とした。</li> <li>・県立図書館の協力により、移動図書館を博物館で開設できた。予想以上の来館者であった。</li> <li>来館者 206名 新規登録者 99名 貸出冊数 630冊</li> <li>・読谷村、金武町の図書館において村民への広域貸出しが24年度から実施されることとなった。</li> <li>・住民アンケートにより、図書館への意見を集約することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館の設置に向け、円滑な事務を図ると共に、移動図書館や近隣図書館の協力による広域貸出しサービス等の住民への図書サービスが円滑に図られるよう取り組む。</li> <li>・図書管理システムを導入し、現在所有する図書や、寄贈図書等の登録や管理に取り組む。</li> </ul>	A	①現状の内容で継続
各種社会体育事業の充実	村民に対してスポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。	今後も福祉健康課とのタイアップ事業を前提とし、各団体等と事務調整をし、実施する必要がある。また、体育指導委員に判定員資格を取得して貰い、上手く活用する必要がある、得られた情報を有効利用できるようにする必要がある。	県、中頭地区で開催される講座等に積極的にスポーツ推進委員に受講させ、体力テスト判定員の資格取得を推進した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力テスト判定員を10名が取得した。また、福祉健康課と調整し、健康福祉まつりでの体力テストを開催し、健康増進の意識高揚につながった。</li> <li>体力テスト 25名</li> </ul>	継続して体力テスト実施し、村民の健康増進を推進していく。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
各種社会体育事業の充実 壮年バレーボール	村民に対してスポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。	バレーボール経験者の参加が増え、大会がレベルアップしているが、経験者のいないチームとの格差が出てきているので、競技規則の検討が必要である。	前大会で出た意見を監督会議で話し合い、参加者全員が楽しめるようにルール改正をした。	バレー経験者が少ないチームでも競えることができ、楽しみながらプレーできた。  参加チーム 12 前年度 (12)	今後も監督会議等で話し合い、参加者全員が楽しみ、壮年の健康増進につながるような大会運営が出来るようにしたい。	B	①現状の内容で継続
各種社会体育事業の充実 壮年ソフトボール	村民に対してスポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。	年々参加チームが増加傾向にあるため、試合数などが増え、運営に苦慮しているため、大会日程を見直す必要がある。	試合会場を3会場で行い、審判等の補助員を参加者と協力しながら大会運営した。	19チームと参加チームが多かったが、3会場で行うことにより1日で大会を開催することができた。  参加チーム 19 前年度 (20)	当日キャンセルが数チームあり、試合日程に支障が出たので支障がでないよう監督会議等での調整を徹底したい。	B	①現状の内容で継続
各種社会体育事業の充実 キンボール	村民に対してスポーツをする機会を提供し、健康増進・親睦を図る。	参加者が増加傾向にあるが、参加地域にばらつきがあるので、参加者が村全域から増えるように広報活動等が必要である。	参加チームを募るために、各字、各種団体等への周知、スポーツ推進委員からの呼びかけを徹底した。	競技がハードすぎる等の理由から参加チームが少なく、大会開催がなかなかできない状況であった。  参加チーム 9チーム 前年度 (12)	次回からはソフトバレーに種目を変更し、ルールも幅広く楽しめるように検討する。	C	②事業内容を変更して継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
各種社会体育事業の充実 ミニバレー	ミニバレーを通してスポーツ技術の向上を図り、健康増進の意識高揚、村民の親睦を深める。	来年度以降は、大人の部の参加に増減がないので、大会開催日を検討する必要がある。 特にバレー経験者の参加が少ないようなので、他の大会等と重ならないような配慮が必要である。	大会の周知を早めに行い、各地区のスポーツ推進委員からの呼びかけに力をいれた。	各クラスで参加チームがあり、幅広い世代で楽しくミニバレーに触れ合うことができた。  参加チーム 14チーム 前年度 (23)	大会日程が他のバレー大会と重なってしまい、参加チームが減少してしまったので、今後は各行事との調整、周知に力を入れ、参加チームを増やし、スポーツを通して健康増進等に努める。	B	①現状の内容で継続
スポーツ推進委員(体育指導委員)の資質向上	各種スポーツの振興と普及活動を支援し、スポーツ推進委員個々の資質の向上を促す。	県や村等が主催する事業への参加率の向上等、意識改革や資質向上については、年々上がってきているが、各出身地区での教室や講座の自主運営が出来ていないので、更なる資質向上に向けて指導・助言が必要である	校区ごとの軽スポーツ教室を開催し、また教室で学んだリンパマッサージを健康福祉まつりで実施した。	スポーツ推進委員で企画したことで、スポーツ推進委員各々が役割を持ち、協力して活動できた。  リンパマッサージ 40名	今後も講座等で学んだことを地域へ還元できるようにスポーツ推進委員での企画、運営に取り組みたい。	B	①現状の内容で継続
村体育協会、国頭郡体育協会の活動支援	恩納村及び国頭郡の体育協会に補助金を交付し、その活動を支援することによりスポーツの振興を図る。	自立運営に向けての指導・助言に合わせて、競技力の向上や普及につながるような事業実施が出来るように指導・助言を継続する。	大会の自主運営だけではなく、スポーツの振興や競技力向上に繋がるような事業実施が出来るよう指導・助言を行った。	大会運営だけでなく、競技力向上につながるような講習会を実施した。	今後も引き続き、スポーツの振興や競技力向上に繋がるよう指導助言を継続する。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
<p>村立小中学校体育施設（プール）の一般開放事業</p>	<p>夏休み期間中、学校施設を有効活用し、村民の泳力及び体力の向上を図る。</p>	<p>○水泳教室等の開催に向け、教育委員会だけでなく、福祉健康課とタイアップ事業としての検討が必要である。</p> <p>○教室開催に向けて、水泳指導有資格者の募集。また、夏休みの解放であるので、親子や一般の方の利用しやすいように、開放日程を検討する必要がある。</p>	<p>○水中運動教室を企画していたが、学校施設のため開催時期が夏休みに限られることや夜間の照明施設がない等の問題や水泳指導有資格者を募集したが応募がなく教室を開催することができなかった。</p> <p>○夏休み期間中の多くの人に利用してもらえるように、土日も開放した。</p>	<p>土日を開放することにより、親子での利用が見られ、子供の泳力向上だけではなく、親の健康増進、子供とのコミュニケーション効果が予想される。</p> <p>利用延人数：883人 (1,164)</p> <p>安富祖：86 (58)</p> <p>喜瀬武原：71 (101)</p> <p>恩納：393 (653)</p> <p>仲泊：217 (152)</p> <p>山田：116 (200)</p> <p>( ) は前年度</p>	<p>今後も土日開放を継続するとともに、開放期間中の水泳教室実施に取り組み、参加者及び管理人等の資質向上に努めたい。</p>	C	<p>①現状の内容で継続 (一部検討)</p>
<p>各種団体等県外派遣補助事業</p>	<p>村民のスポーツや文化的活動に対する意欲を向上させ、各種スポーツ及び文化的活動の振興を図る。</p>	<p>村民のスポーツ振興や競技力向上に寄与しているので、今後も事業継続が必要である。</p>	<p>事業に該当する団体の情報収集、周知徹底に努めた。</p>	<p>情報収集・周知することで各団体へ派遣補助できた。</p> <p>○小学生 団体：2団体 (2団体) (タグラグビー)</p> <p>個人：2名 (1名) (バドミントン)</p> <p>○一般該当なし (1団体)</p> <p>( ) は前年度</p>	<p>事業を継続し、該当する団体の情報収集、周知徹底に努め多くの団体へ派遣補助を行い、スポーツ、文化活動への意欲向上を図る。</p>	B	<p>①現状の内容で継続</p>

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
村体育施設維持管理事業	村内の体育施設の維持管理に指定管理者制度を導入し、その運営を行わせることにより、管理費用の軽減及び利活用の増進を目指す。	<p>自主事業が開催され施設利用率の向上に繋がっているが、まだ十分とは言えないので村主催事業と被る事がないように調整し、更に指導が必要である。</p> <p>また、これまで開催している自主事業は利用率の向上に繋がっているが、収益性がほとんどなく、委託費の削減に繋がっていないので、自主事業を開催する上で、収益性のアップに繋がるよう指導・助言が必要である。</p>	<p>施設利用率向上に向けての施設維持管理徹底の指導を行った。</p> <p>また、収益の増加等について調整会議を行って今後の方向性、自主事業の実施、村の要望等を伝え、意思疎通を図った。</p>	<p>施設維持管理については利用者からも好評であった。</p> <p>収益の増加については天候等の影響もあり、見られなかった。</p> <p>○自主事業の開催 2日間の少年サッカー大会を開催、21チームの参加があった。</p> <p>○村民への無料開放 ・石川高校、嘉手納高校、読谷高校練習試合（野球場） ・村内小学生タグラグビー講習（サッカーグラウンド） ・村内少年野球チーム練習試合（運動場、サブグラウンド）</p>	施設利用率向上に向けて、施設維持管理を徹底したい。また指定管理者側への自主事業開催の継続等の指導、連携に努めていきたい。	B	①現状の内容で継続

(3) 学力向上対策委員会事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
地域学習塾支援事業	学力向上対策委員会の組織を強化し、学校、地域、家庭が連携してそれぞれの役割を分担しながら心・知・体の三拍子揃った子どもの育成を図る。	地域学習塾における講師の確保と内容の拡充を図る。部活動による中学生の参加が少ない。	人材情報の提供を行う。 小学生対象の地域学習塾とする。	全ての自治会において計画され、講師の確保も積極的に行われた。 150回、延2024人参加。	各区支部の人材育成課題に基づいた地域塾の開催と講師の確保。保護者の負担が大きいとの声がある。	B	①現状の内容で継続
石狩市中学生交流事業	地理・歴史・文化の異なる北海道との交流体験を実施することで、沖縄の文化との違いについて学ぶとともに、人間性豊かな人材の育成を図る。 ※ 隔年ごとに派遣、受け入れで実施する。 「23年度は20名の中学生を受け入れ施設等見学、交流学习、体験学習、民泊体験を実施」	交流の意義の再確認と受け入れ送る側の担当の役割分担の明確化を図る。	受け入れ態勢の整備と交流学习会の計画を図り、安全に楽しく過ごせるようにする。	歓迎会や安富祖校との交流会、民泊など、計画通りに事業が展開された。	24年度は派遣となるため、早い段階から計画を練る必要がある。	B	①現状の内容で継続
教育講演会事業	村民の教育に関する意識の高揚を図ることを目的に著名人を招き、講演会を開催した。 平成23年度は、詩人「須永博士」氏、教諭「川嶋環」氏による授業と講演会を実施した。	新学習指導要領に対する教職員を対象とした情報教育及び特別支援教育、食育等の講座・授業づくり研修会の実施。	学力向上のための教職員向けの教育講演会の実施。	情報教育及び特別支援教育、学対実践報告会における授業づくり研修会の実施。	家庭・地域向けの教育講演会の実施。	A	②事業内容を変更して実施

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
教職員先進地視察研修事業	学力定着率の高い県外の都道府県に小中学校の教職員を派遣し、学力定着に向けた指導方法の工夫改善に資する。	視察研修は廃止し、秋田県より講師を招聘しての研修会に変更する。	視察研修は廃止し、秋田県より講師を招聘しての研修会に変更する。	秋田県より講師を招聘しての研修会を実施。秋田視察派遣教諭の率先した取り組みが見られた。	ミドルリーダー育成のための先進校視察研修の継続。	B	②事業内容を変更して実施
学対実践報告会	恩納村学力向上対策の取り組みの成果と課題を、学校・家庭・地域の立場から検証する	保護者の参加者が少ない。実施期日や隔年開催も含めて検討する。学校報告会と村開催の役割を確認する。	平日から日曜日に期日を変更する。学校の発表と重ならないよう企画する。	議会議員、自治会長・各種団体長へ案内を送付、生徒の発表の場も加えたため、参加者が増えた。	児童生徒の発表の場を拡大する。	B	①現状の内容で継続
諸検定料支援事業	全国規模で実施されている漢字検定・英語検定・数学検定等を希望する児童生徒に半額補助し、学力についての意識化と定着を図る。	当初予算を消化できず、意義について保護者への啓蒙が必要である。	校長会・教頭会を通して学校へ呼びかける。	開始の年度と比較して受験者が増えた。 英語 265 人 漢字 653 人 数学 212 人	当初予算を消化できず、意義について保護者への啓蒙が必要である。執行状況の確認と調整。	B	①現状の内容で継続
未来塾事業	高校受験を控えた中学校3年生に対し、学習への不安・課題を解消するために実施する。	新規事業	新規事業	11月から3月までに37回実施した。受講者は全員高校へ合格した。	時期を早めて長期で対応。	A	①現状の内容で継続
スキルアップ研修	各学年・教科一人体制という課題を解決するため、村内職員が協力して協議し、互いの資質・能力を高めるために行う。	情報交換にとどまり、学年や教科としての深まりが無い。	スキルアップ研修の意義や本年度の取り組みについて共通理解を図る。	学校課題の解決に向けた取り組みが増えた。 ・ 2学年「国語研究」 ・ 3学年「笛の指導」 ・ 5学年「交流学习」 ・ 中学音楽「ジョイントコンサート」	今後、各学年・教科の拡充を図る。	A	①現状の内容で継続
各種コンクール事業	各種コンクール事業を開催することにより、児童生徒に発表の機会を与える。	新規事業	新規事業	学校給食・あいさつ標語・夢作文・美化コンクールを実施、多くの児童生徒の応募があった。	各種コンクールの開催時期を検討する。	A	①現状の内容で継続

(4) 博物館所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
博物館運営	博物館は村の自然、歴史、文化を発信する生涯学習機関としてふるさと学習の拠点となるよう、関連する資料の収集、整理、保存活用に努めると共に、展示公開、調査研究を充実させ、企画展、各種講座、芸術鑑賞の機会をとおしてふるさと学習にふさわしい施設としてその活性化を図ります。	村内外の文化財や人材、その他芸術作品を活用した企画展や各種講座等の事業を展開し、ふるさと学習を啓発すると共に、年間入館者数の目標値を定め、達成できるように努める。また企画展、講座等の開催時期についても効果的な開催に努め、立て看板等の活用など、広報の方法を工夫する。	博物館運営において重要な役割を担っていたが博物館運営協議会委員に村内出身者や県立博物館での勤務経験のある専門家などの方を新たに委嘱し、運営委員会を開催。また、村文化展への協力や村内の小中学校の教員の研修などの受け入れや地域の団体への支援なども含め、博物館施設の活用に取り組んだ。	23年度は3回の企画展、2回の講座・イベント、地図資料の修復事業などを行った。仲泊の大正琴サークルに練習場所の確保について支援するなど、博物館の利用者総数 7,659 名（前年度 6,355 名）と増加させることができた。また、博物館の今後の活動方針を決めていくため、新規運営委員の委嘱、運営委員会を開催した。	運営協議会の中でも、博物館の活動や展示会、講座などのイベント情報などを広く発信するために、博物館のホームページの整備などの必要性の提案があり、今後整備に向け対応を検討したい。村内小中学校などの他機関などとの連携についても検討が必要である。	B	①現状の内容で継続
「海に見える博物館、うんな工芸展 2011」	村内で活動する作家の作品をとおして、伝統工芸、現代の工芸を紹介すると共に、体験教室を開催し、伝統工芸や現代の工芸の魅力に触れる事により村民に工芸や芸術に対する理解を深めてもらう場とする。	陶芸、琉球ガラス工芸のみの展示であるが、村内には他の工芸に取り組む作家もおり、そうした作家とも連携し、出展内容の充実を図るとともに、体験教室への村民の参加についても向上が図られるよう努める。	これまでの陶芸、琉球ガラス工芸でも新規出展者を依頼するとともに、村内で活動する漆工芸の作家にも出展を依頼した。また、工芸体験も3分野を同日に開催して参加者の増加を目指した。	6/28～7/19開催(19日間)。期間中入館者465名。工芸体験は7/10に開催。参加者は29名。出展者の増加、[個人14名+4工房(前年度は個人7名+3工房)]、展示作品の充実と工芸体験の参加者増加をすることができた。	展示会中の入館者数が伸び悩んでおり、今後展示会の内容の改良などを検討していく。	B	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
企画展「発掘資料からみたらうんなの暮らし」	博物館が収蔵する資料や文化財の資料を活用し、恩納村の情報を発信し、村の歴史や文化財に対する理解を深めてもらう場とする。	・毎年の企画展をとおして、広い分野の資料を収集し、その資料や研究成果を展示に反映させることで、展示物の充実に努めたい。	平成 20 年度から平成 23 年度まで行われた村内遺跡確認調査の成果やこれまで報告されている発掘調査の成果などを広く公開することで、恩納村の歴史や文化財に対する理解を深める機会とする。	平成 23 年 9 月 27 日～11 月 13 日 (43 日間開催)。期間中入館者 725 名。村内でこれまでに確認されている遺跡や遺物を実物資料や現地の写真などを使用しながら、各字ごとに紹介した。	毎年の企画展をとおして、自然・歴史・文化などの広い分野の資料を収集し、その資料や研究成果を展示に反映させることで、展示物の充実に努めたい。	B	①現状の内容で継続
(共催)平成 23 年度沖縄県芸術文化祭写真選抜展	沖縄県、沖縄県文化振興会主催の「沖縄県芸術文化祭」の移動展を受け入れ、村民が芸術作品を鑑賞する機会を設け、芸術振興に資することを目的とする。	来場者がそれほど伸びなかった。作品借用可能な期間の日程もあり、展示会の開催期間が短いので、効率的な広報を行いたい。	展示会の周知を図るために他博物館・資料館施設だけではなく、周辺市町村の行政機関やホールなどにもチラシ・ポスターの配布を行った。	12/14～18 開催 (5 日間)。期間中入館者 158 名 (前年度 6 日間、131 名)。66 点の写真作品を展示。北部地域からなはまで行かなくても作品を鑑賞できるということなどで、好評な意見が聞かれた。	平成 23 年度で 2 回目を迎え、徐々に開催を認知してもらえてきているが、資料借用の都合もあり、開催期間が短いので、調整し、もう少し長めの期間を確保したい。	B	①現状の内容で継続
サンセットコンサート	博物館を活用し、村民を中心に優れた芸術・音楽・芸能等を鑑賞する場を提供することで、芸能等への関心を高め、恩納村の文化振興に資することを目的とする。	会場で実施したアンケート結果を踏まえ、琉球古典音楽だけではなく、多彩な内容で開催していきたい。	村出身で県立芸術大学を卒業している名城一幸氏を中心としたメンバーに出演を依頼し、沖縄民謡を琉球楽器と洋楽器で演奏する音楽を企画。	平成 24 年 3 月 31 日開催。来場者 80 名。博物館閉館後に博物館ホールを利用し、コンサートを実施。アンケートでも好評だった。	村内出身者などの人材の活用、幅広いジャンルでの開催を検討。	A	①現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
博物館講座「恩納村の地形と地質」	博物館主催の講座をとおして、村民に村の自然、歴史、文化についての理解を深める場を提供する。	講演会の内容、広報の期間・方法等を検討し、より多くの地域の参加者の増加を図る。	『恩納村誌』自然編の調査員に講師を依頼し、恩納村の地形や地質に関する講義と現地見学会を開催した。	平成24年2月26日に開催。参加者12名(村内7名、村外5名)。博物館研修室でこれまでの調査成果についての解説を行ったのち、南恩納～恩納の海岸や丘陵の特徴的な地形についての見学を行った。参加者からも分かりやすかったなど、好評だった。	今後も継続して、村に関する幅広いテーマを扱い、体験学習や巡検などの実施する。	B	①現状の内容で継続
博物館講座「恩納区の文化財巡り」	博物館主催の講座をとおして、村民に村の自然、歴史、文化についての理解を深める場を提供する。	講演会の内容、広報の期間・方法等を検討し、より多くの地域の参加者の増加を図る。	恩納区出身で恩納村誌編さん委員会委員長を務められている方に講師を依頼し、恩納区の文化財巡りを実施した。	平成24年3月18日に開催。参加者8名。恩納区内の文化財を巡りながら、解説していただいた。講師の体験も交えながらの解説でとても興味深かった。	今後も継続して、村に関する幅広いテーマを扱い、体験学習や巡検などの実施する。	B	①現状の内容で継続
博物館紀要の刊行	恩納村に関連する研究及び報告に関する情報の発信源とする。また、記録することで後世に伝える。	恩納村に関する研究や報告について、博物館で取り組みの成果などを活用する。	博物館に勤務する職員各人に原稿の執筆を依頼し、恩納村や博物館活動に関する成果など幅広いテーマについて、取り扱う。	『恩納村博物館紀要』7号(54頁)を刊行した。	今後も継続し、村や博物館活動に関する研究・報告に努める。	B	①現状の内容で継続
「恩納間切・村地籍図等資料」修復事業	明治時代に作成された恩納間切時代の地図や村制直後の地籍図を貴重な歴史資料として後世まで伝えるために、専門業者による修復事業を実施する。	紙資料の劣化を最小限にとどめるために、早急な修復作業の実施と活用の方法を検討する。	地図資料の修復だけでなく、今後の活用も考慮し、デジタルスキニングを同時に実施し、活用しやすいようにする。	今年度は間切地図1点、旧陸軍作成の「沖縄群島図」1点の修復と修復済みの地図を含め66点の地図のデジタルスキニングを実施した。	修復が完了した地図やスキニングのデータを今後の博物館展示に活用していく。	A	③事業の廃止(完了)

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
歴史ロードを歩こう事業	恩納村内に所在する国指定史跡「国頭方西海道」やその一帯に所在する恩納村の財産である文化財を見て、聞いて、触れることで文化財愛護思想の啓発を図った	村内の参加者の増加を図るためさらに積極的に広報活動を行う。 「道の会」の案内方法について情報交換等を行い検討する。	適切な安全管理を目標に職員を道路横断時の誘導、歩行時の呼びかけや滑りやすい箇所等に職員を配置した。 「道の会」の案内方法についても、幅広い世代に合わせてわかりやすい言葉での案内をお願いした。	参加者 50 名。村内外からの参加者が多く、次回も参加したいという意見が多く寄せられとても好評だった。前年度(H22)参加者 57 名。	平成 23 年度は、高齢な方々の参加が多かった。そのための安全管理及び対策を検討する。	A	① 現状の内容で継続
親子文化財めぐり	親子で文化財めぐりをすることにより、歴史や文化財への認識を高め、文化財保護の啓発を図る。	継続して村内の学校、子ども会へ参加の呼びかけを積極的に行い、ふるさと学習の機会の充実を図る。	村内の学校及び子ども会への呼びかけを実施。特に村内の子ども会に協力を求めた。	瀬良垣区の親子 25 名が参加。 村縁の護佐丸に関連する山田城や座喜味城跡など地域の文化財を親子で楽しみながら理解しやすい学習の機会となった。また参加したとの意見も頂いた。 前年度(H22)は、太田区の親子 30 名参加。	継続して村内の子ども会や学校への呼びかけを実施し、参加者の増加を図る。	A	① 現状の内容で継続
恩納村文化財保護審議会	村内に所在する文化財の保護と活用について審議会を実施し、村内の文化財保護に努める。	継続して文化財の保護及び活用に努めると共に指定文化財の増加に努める	村内の指定文化財の候補案を作成するための情報収集を実施した。	平成 23 年度は、年 1 回の審議会を実施。村内の指定文化財の増加を図るため委員を委嘱した。委員長、副委員長の選出、平成 23 年度事業報告及び平成 24 年度事業計画の報告を行った。	村内の指定文化財の増加を図るために基礎情報を収集するためにも各公民館へ指定候補のアンケートを実施し、情報収集を図る。	B	① 現状の内容で継続

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
国庫補助事業 恩納村内遺跡発掘調査等	国庫補助事業として4カ年事業で、村内の埋蔵文化財の分布状況の把握と開発調整に必要な確認調査の実施。	事業最終年度となる平成23年度には分布調査及び開発に伴う調査及び平成20年度からの調査成果をまとめた報告書を刊行する。	平成23年度は、山田～真栄田地区の遺跡分布調査を実施し、4カ年間の調査成果をまとめ、報告書を刊行した。	平成20年度～平成23年度までの4カ年間の事業で地域の歴史を知るうえで重要な遺跡が新たに24箇所を確認することができた。	これまで確認された遺跡の保護及び活用について検討する。	A	③事業の廃止（完了）
国庫補助事業 山田城跡保存管理計画策定事業	国庫補助事業として2カ年事業で、国指定史跡「山田城跡」の保存管理計画策定事業の実施。	継続して平成23年度にも審議会を実施し、計画書を刊行する。	計画書の審議会を2回、個別指導を1回実施し、計画書の策定及び刊行を実施した。	国指定史跡「山田城跡」の史跡の保存に係る法的及び行政的処置としての保存管理計画書を策定し、刊行することができた。	今後、史跡整備の実施するに当たり、山田城跡の基礎情報の収集および整備に向けての構想、計画を検討する。	A	③事業の廃止（完了）
墓建設に伴う文化財発掘調査	個人による墓建設に伴う緊急文化財調査を実施。仲泊大道原に所在する印部石（ハル石）及び戦争遺跡の人工壕を発掘調査を実施。	前年度取り組みなし		大たう原「ね」と刻まれた印部石と戦争遺跡人工壕の緊急発掘調査を実施。印部石は、調査後博物館で保管し、調査した写真や図面、記録の整理作業を実施した。	個人住宅などの工事に伴う文化財の調査が増加している。迅速な対応ができるよう検討する。今回調査で得られた情報の整理作業を行い博物館にて公開・活用を実施する。	A	③事業の廃止（完了）
谷茶前川河口工事に伴う文化財調査	文化財保護法に則り、谷茶前川河川工事に伴う文化財の確認及び工事立会いを実施。	前年度取り組みなし		河川工事に係る埋蔵文化財「谷茶貝塚」と「谷茶前川河口遺物散布地」の保護のため、工事立会いを実施した。	河川工事は多年度事業で、平成24年度も文化財保護法に則り対応が必要である。	A	① 現状の内容で継続

(5) 学校給食センター所管事業

事業項目	事業目標及び事業内容	前年度の課題	課題克服に向けた取組	事業の成果	今後の課題	評価	総合判断
栄養教室の開催	児童生徒に食に対する正しい知識を身につけさせると共に学校給食の重要性を認識させる。	給食時間以外の栄養教室の開催できる時間の確保	特別活動の時間や身体測定の際に食に関心を持たせるための講話や栄養指導を行った。	バランスのとれた食事の摂り方と正しい食習慣についての栄養指導を実施した。	年間を通じた食に関する指導計画の作成と実践。	B	①現状の内容で継続
村産食材の積極的な活用	安全な食材の確保と村内生産者との連携による地産地消の推進	地産地消をもっと積極的に活用するために情報収集とフードコーディネーターの確保が必要	おんなの駅の職員や地域の生産者との話し合いにより村内地場産品や県産品の食材を取り入れた。	地場産品を通しての生産者の努力等を子ども達に理解させることができた。	おんなの駅や近隣生産者への情報提供による安定的な食材の確保や生産農家等との体験給食の実施。	B	①現状の内容で継続
給食センター見学の推進	給食の調理の状況を見学させて、その安全性を認識させる。	各学校の年間計画の中で取組んでもらえるような対応が必要。	毎年給食センターの見学が行えるよう各学校と連携し、行事として取組めるよう調整する。	給食センター見学をとおして、衛生管理を理解させることができた。恩小3年、山田幼稚園、仲泊幼稚園、喜瀬武原幼稚園親子見学	各学校の年間計画の中で取組んでもらえるような対応が必要。	B	①現状の内容で継続
給食費徴収率の向上	安全で質の高い給食の提供するため、各自治会を通して徴収し、未納者はセンター職員が直接徴収。	納付義務意識を高め、口座振替を推進する。準要保護の制度も周知していく。	給食費の納付に対する義務意識のない者への電話催促や文書による納付促進や未納者面談による納付依頼。	電話催促や文書による納付督促により少数ではあるが納付があった。	口座振替の推進や各自治会、学校、PTAとの連携による徴収方法の検討、家庭訪問の実施	B	①現状の内容で継続

#### 4 外部有識者の意見について

教育委員会の内部評価を終えて後、評価の客観性を確保するため、外部評価委員会に諮問して点検評価結果に関する意見を求めました。外部評価委員会の構成メンバー及び意見の内容は次のとおりです。

##### (1) 恩納村教育委員会の事務事業の点検評価外部評価委員会

役職	氏名	任期	備考
委員長	大城勝泰	平成23年11月1日～平成25年10月31日	元教育委員・元村議会議長
副委員長	金城啓	平成23年11月1日～平成25年10月31日	元石川高等学校校長
委員	真栄城慶子	平成23年11月1日～平成25年10月31日	元村子供育成会会長

##### (2) 意見

当委員会は、教育長の諮問に基づき、8月15日、8月20日に委員会を開催し、諮問された各種事務事業の評価や課題把握の根拠などについて、課長及び担当者の説明を受けながら評価を行いました。また8月29日には、これまでの会議の経緯の確認と意見の集約を行いました。その結果を答申いたします。

#### 記

##### ① 点検評価報告書について

今回の教育委員会の事務事業の点検及び評価は、事務事業評価シートにより事業目標、事業の成果、今後の課題、事務事業の評価について、事業担当者からのヒヤリングを行い事業実績や事業の成果、事業に対する自己評価等が適切であるかを確認しました。また、恩納村全体の生涯教育を考え、学校教育、社会教育関係事業について、生涯教育の視点から事務事業の点検及び評価を行いました。4年目ということでこれまで、いくつかの課題も指摘されてきておりますが、点検項目並びに事業内容、取組み結果及び課題についても、わかり易く丁寧にまとめられ、担当者が熱心に取り組んだことが伺えました。

事務事業の点検及び評価は、事業の計画、実施、検討を行う職員自らが事業への意識を高め、事務事業への村民の満足度の向上や期待への適合などを視野に入れるとともに説明責任への意識を持つことが大変重要であると感じました。成果の見えにくいといわれる教育行政について、PDCAサイクルに沿って事業展開ができるよう常に点検や評価を繰り返すことが重要だということが確認できました。

この評価結果の活用につきましては、次年度以降の事業の取組みを具体的に進めやすくするためのものであり、予算や事務改善等の施策を推進するための方向性を確認するものとして、取り入れていただきたいと思っております。

##### ② 事務事業の評価について

今回は84件の事務事業の内部評価を点検しました。取組み内容や事業成果を見る限りにおいて、全体的に評価は概ね妥当だと思っております。しかし、事業目標と事業内容、事業の成果、今後の課題との間で内容が不一致なものが何件か見受けられました。また、事業目標と事業の成果について、内容が少し懸け離れている事業も見受けられましたので改善をお願いします。事務事業の実施の際、対象者への事業の効果的な周知のあり方について検討し、事業効果が上がるよう対策を講じていただきたいと思います。

なお、外部評価をしていく中で、委員から多様な意見提言がありましたので、主なものを列記します。

教育振興備品整備事業につきましては、予てよりの指摘事項でありました各学校の備品について教育委員会での一括管理について、備品管理システムにより一

括管理ができたことは成果として評価したいと思います。

国際交流派遣事業につきましては、前年同様応募者が少なく、参加者募集の周知方法や資格審査の見直しを行うとともに、募集枠について、現在の高校生、中学生から大学生、一般への拡大やアメリカだけの派遣だけではなく他の国への派遣等も検討する必要があると考えます。

社会教育関係事業において、事業内容が同じような事業、参加者が重複している事業については、事業の廃止、統合等事業の整理が必要だと思えます。

博物館経営につきましては、将来の図書館建設、おんなの駅「なかゆくい市場」との関係等についての経営マネジメントを考慮した運営が望ましいと思えます。

給食センターにおける村産食材の活用につきましては、食材の確保の仲立ちをするコーディネーターの確保が課題となっておりますが、おんなの駅「なかゆくい」との連携により村産食材の利用が増えていることは大いに評価します。今後も連携を密にし、積極的に村産食材の活用に取り組んでいただきたいと思います。その他、個別の事業について、審査の過程で多種多様な指摘や提言がありましたがその全てを列記することは省略し、資料として会議録を添付いたしますので今後の事業展開の参考に供していただければ幸いです。

### ③ まとめ

この事務事業の点検評価は、前年度に実施した事業について、既に現年度の事業が進んでいる時点で行われなければならないシステムであるため、外部評価委員の意見がどの程度即効性をもって反映されているか疑問視されますが、事業終了後に行う総合評価だけではなく、事業途中で行う形成的評価を取り入れることにより、現在進行中の事業であっても途中で区切りをつけて評価し、より実効性のある点検及び評価とするためにも一度立ち止まっての点検も必要ではないかと思えます。

事務事業の点検及び評価をすることにより、成果を確認するとともに、課題を見つけた場合は、次年度はその課題解決を事業目標に掲げ解決に向けて努力をしていく、この繰り返しをしていくことがマンネリ化を防ぎ、効率的な事業推進につながります。その結果が次年度以降の教育目標や事業執行、予算等に反映されるとともに、事務事業の改善等に活用されるよう職員が点検評価の趣旨を十分に理解し、高い事業目標を掲げ、常に受益者たる村民の目線で担当する事業を進めていけば、より効果的な事業展開が行われ、本村教育の更なる振興につながります。今後なお一層のご活躍をご期待申し上げ外部評価委員会の答申と致します。

### ④ 結びに

今回の点検評価は教育委員会にとって4回目ということで、このシステムについても各担当者に浸透してきました。今後ともなお一層村民によりわかり易い内容になるよう検討を進めながらその内容の充実に努めていきたいと考えております。

事務事業の点検及び評価は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条の規定に基づき、教育委員会が教育に関する事務事業の管理及び執行状況を点検及び評価することにより、その成果や課題を確認することで、今後の事務事業の改善に反映させるとともに、具体的、効果的な教育行政の推進を図ることを目的としています。

今回の点検評価で明らかになった課題については、次回の点検評価でその取組みの経緯と結果がわかるよう報告していきたいと思えます。また外部評価委員会の意見を謙虚に受け止め、事務事業の改善やより効果的な事務事業の実施と内容の充実に努めてまいります。今後とも更なるご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

平成24年9月

恩納村教育委員会